

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
学ぶ楽しさの追求	① 職員の資質向上 ② 基礎学力の定着 ③ 教育環境の充実

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

① 職員の資質向上と基礎学力の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自分の将来を考え、夢を語る児童の育成 ・自分の夢を語る児童を80%以上とする。 ・自分の夢に向かって、今努力する目標を考えることができる児童(3年生以上)を80%以上とする。	・総合的な学習の時間を利用して、地域の活性化を考える中で、自分たちができることや高島の未来について考えさせる。 ・道徳や特別活動で自分の将来について考える授業に取り組む(キャリア教育)。	A	・児童の設問「おとなになってやってみたいゆめやしごとがある」及び保護者の設問「学校では地域の人々のふれあいや体験活動を通して高島に誇りを持たせようと指導していますが、成果が出ていると思いますか」について「だいたい思う」「そう思う」合わせて100%だった。 ・本校教育には保護者だけでなく、島内の方や様々な職種の方に来てもらっており、情報収集できる環境である。	・今年度は、地域の島おこしを総合的な学習で取り扱ったことで身近な人が地域の活性化に尽力していることを知り、努力することの良さを体験できた。これからは、自ら関わろうとする気持ちを育てていきたい。
学校運営	○教職員の資質・能力の向上	児童の実態・特性に応じた指導の工夫及びICTを活用した授業の工夫	・校内研究、職員研修を通じて教職員の指導力の向上を図る。 ・ICTに関する研修を1回以上行う。	・校内研究で、児童の個々の実態を共通理解し、特性に応じた指導について考え実践する。 ・電子辞書、Web共有ボードの利活用についての研修を行う。	A	・全児童が授業よくわかる答え、保護者も児童一人一人に応じた指導ができていますと回答している。 ・授業に携わる全職員が、ICT機器を積極的に活用している。	・今後も児童の実態・特性に応じた指導の工夫や、ICT機器を目的ではなく手段として用いるように研究を進めていく。
教育活動	●学力の向上	コミュニケーション能力を育てる指導の工夫及び基礎的学習内容の習得を図る工夫	・交流学習を活用し、同級生とのコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・児童の実態に合わせたコミュニケーション方法をとる。 ・朝の時間を活用し、児童の実態に応じた基礎的学習を行う。	・交流学習のねらいを児童に正しく伝え、児童自ら他校の児童に関わろうとするようめあてをたてさせる。 ・児童の実態に応じて、テレビ会議システム、Web共有ボードなどICT機器を活用し、児童が人と関わることへの苦手意識を少なくしていく。	B	・基礎学力充実のために、朝の時間や授業中に漢字や計算などの練習問題に取り組んだ。継続的な取り組みやiPadを使った指導によりある程度の成果が見られた。 ・交流学習や遠隔教育など多くのコミュニケーションの場を設定したことで、児童の表現力が高まった。人と関わることの楽しさを知り、進んでコミュニケーションを図る児童が増えた。 ・基礎学力の向上は見られたが、「知識・理解」面の習得に課題がある。	・基礎学力向上のため、今後も個に応じた支援を行い、個別最適化学習に取り組む。

② 豊かな心と身体の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	集団の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度の育成	・児童全員が学校・家庭・地域で元気に挨拶できるようにする。 ・全員が友だちに「さん・くん」をつけて呼べるようにする。	・全校朝の会で挨拶や返事についての話をしたり、詩を朗読したりする。 ・毎日、全児童と全職員で「おはよう握手」と「さよなら握手」を実施する。 ・全職員が「にこにこ道徳」の授業を見せ合う。	B	・挨拶や返事の項目で8割の児童や家庭が達成できている。道徳教育等を通して心の教育がなされていると考えられる。また、日頃から全職員が全児童への接し方で共通理解を図っている。	・少ない人員なので指導が行き届く半面、卒業後に中学校の大集団に入った時に児童がどこまで環境に順応、適応できるかが課題と思われる。
教育活動	●いじめ問題への対応	差別・いじめを許さない支持的風土のある学校づくりの推進	・教育相談体制を充実させ、スクールカウンセラーや保護者との連携を図る。	・いじめに関するアンケート等を実施し、状況把握に努め、その結果を学級・学校づくりに活かす。 ・スクールカウンセラーを活用した面談やエンカウンター等を実施する。	B	・児童には他の人に意地悪なことをしていないという認識はある。また、スクールカウンセラーを活用して他校と合同で構造的エンカウンター等の職員研修を行い、日々の実践に反映させた。	・引き続きスクールカウンセラーを活用して児童について職員の共通理解を図る。さらに、いじめに係るアンケートを実施して実態把握を行い適切に対処する。
教育活動	●健康・体づくり	心身の健全な発達と体力向上の推進	・毎週水曜日20分休みに体力の向上を目的とした活動を入れる。 ・毎月の委員会活動を通して、保健や体力向上に関する啓発活動を行う。 ・食生活を通して、身体の健康的な成長を促す。	・毎週水曜日20分休みにマラソンタイムやなわとびタイムを継続的にを行い、体力の増加を図る。 ・委員会メンバーを中心に、身の回りの衛生や健康に関する調査やポスターの掲示など、啓発活動をすすめていく。 ・毎日の朝食喫食調査や給食指導の中で、食事の大切さをつたえ、肥満児や痩身児の減少を目指す。	A	・今年度は前年度より委員会活動が充実し、児童主体による体力向上、身の回りの衛生や体調管理に関する取り組みを実施することができた。自分たちが話し合ってきた内容を取り組むことにより、積極性や協調性が増し、体力や健康に対する意識が深まった。	・体力については個人差が大きいので、個人のペースで段階的なステップを踏むことで向上を図ればと考える。衛生面では、公共の場でのトイレや手洗い場の利用のマナーなどを知らないことも多い児童がいるので、普段の指導に加え、適宜丁寧に指導していくことが必要と考える。

③ ICT利活用教育の推進(宝当プラン)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○遠隔教育の推進	TV会議システムとWeb共有ボードの活用による主体的・対話的に深い学びの充実	・毎週水曜日にスピーチタイムを実施する。 ・年1回以上、TV会議システム・Web共有ボードを活用した授業を行う。	・プログラミング教育の授業で作成する高島の紹介や観光案内などを活用して、TV会議システム、Web共有ボードでの交流を推進する。 ・各学年で、国語などの教科や道徳などの活用をさらに推進する。 ・大学、水産振興センターとの連携を行う。	A	・TV会議やWeb共有ボードを多くの学年で使用し交流することができた。 ・日常的に使用することで、児童が他校の児童とも意欲的に学習するようになり、児童のコミュニケーション力の向上につながった。	・今後は離島同士だけでなく、専門機関など外部とのコミュニケーションツールとして活用を検討する。
教育活動	○プログラミング教育の推進	アンブレグドやプログラミングの活動を通して本校児童に身に付けさせたい「資質・能力」と実施可能な「年間計画」の明確化	・低学年児童はアルゴリズム(処理手順)について知る。 ・中学年児童はアルゴリズムをフローチャートに書くと共に、問題解決のために「順次」「繰り返し」の処理を組み合わせさせてプログラミングを作成することができる。 ・高学年児童は問題解決をするために「順次」「繰り返し」「条件分岐」の処理を組み合わせ、プログラミングを作成することができる。	・年間計画を作成し、実際に指導しながら修正を行う。 ・各授業で簡易指導案を作成する。 ・低学年で「プログラミング・ゼミ」の活用、中学年で「スクラッチ」の活用、高学年で「プレゼンテーション」の充実を検討する。	A	・絵本を使ったアンブレグドやスフィロ、Twitterボットを使用したプログラミング教育を実施することができた。 ・他校がプログラミング教育について、模索している中で、本校ではプログラミング教育について積極的に学び、手段の一つとして実践的に行っている	・実践したことをもとに、プログラミング教育を年間計画に入れ行くことを、実践しながら進めていく。
学校運営	○ICTを活用した学習支援の推進	ICT環境の整備と有効活用実践の推進	・電子辞書、タブレットを日常の授業で使用できるよう準備する。 ・TV会議システム用の教室を整備し活用する。	・各機関と連携し環境の整備を進める。	A	・児童全員が「電子黒板やデジタル教科書を使った授業は分かりやすかった」と答えている。 ・電子辞書や360度カメラ、iPadなど様々なツールを使用した。	・今後も企業と連携して様々なツールを活用してICT環境の整備を進めていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の推進	・業務の効率化を図り、勤務時間内における学級事務等の時間を昨年度より20%増やす。	・職員会議については内容を精査し、資料配付で済ましたり、回数を減らしたりする。 ・特定の職員に業務が集中しないように連絡調整を密に行う。	B	・職員会議については、事前に議事内容を伝え、1時間で終了できるようにした。	・地域の特色上、予定外の行事が入ることがあり、職員の業務が増えることがあった。こうした状況に備えて、あらかじめゆとりを持って行事計画を立てていきたい。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度は、学校教育目標に「学ぶ楽しさの追求」を挙げ、①職員の資質向上(児童の実態・特質に応じた指導の工夫・ICTを活用した授業の工夫)②基礎学力の定着(コミュニケーション能力を育てる指導の工夫・基礎的学習内容の習得を図る工夫)③教育環境の充実(・ICT機器の充実・地域との連携)に取り組んできた。具体的には、「島おこし」について総合的な学習の時間に取り扱い、地域と連携することで島を活性化させたいとする前向きな姿を学ぶことができた。また、学習したことをTwitterボットで情報発信を行ったり、プログラミング教育に生かしたりするだけでなく、他の離島の児童や島を訪れた団体にプレゼンテーションすることでコミュニケーション能力の伸長も図ってきた。各教科においては、電子黒板だけでなく、電子辞書やタブレット端末など様々なICT機器を活用して基礎学力の向上に努めてきた。今後は、児童の視野をさらに広げて自ら関わろうとする意欲を喚起するとともにICT機器を手段としてコミュニケーション力の向上を目指すための取組を進めていく。生活面では離島という狭い環境の中、いじめ等の問題もなく穏やかに過ごしているが、大きな集団で過ごす中学校進学後を見据えた指導が今後の課題である。健康・体づくりにおいては、児童の主体的な取り組みが体力や健康に対する意識向上につながった。

●は共通評価項目、○は独自評価項目